

令和2年2月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

白ネギべと病の防除対策について

昨年12月から高温傾向（図1）であり、現地の一部圃場ではべと病の発生が確認されています。また、気象庁の1か月予報（表1）では気温は平年より高く、降水量は平年より多いと予想されており、気象次第では今後べと病の多発が懸念されます。圃場内外でのべと病の発生状況に応じて防除を実施してください。

1. 気象状況

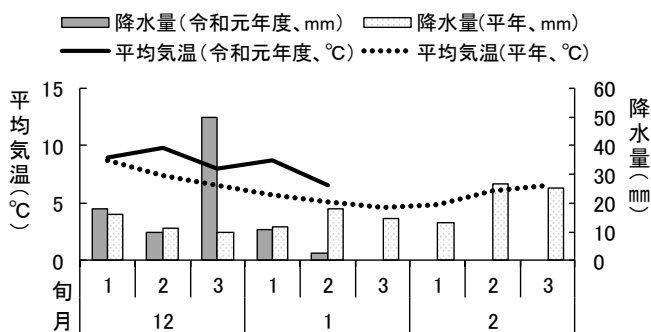


図1 気象状況(気象庁 豊後高田市)

表1 九州北部地方1か月予報

気象	各階級の確率(%)		
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	20	30	50
日照時間	40	30	30

※令和2年1月23日福岡管区気象台発表

2. 防除上注意すべき事項

- 1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があり、発生に好適な気象条件（平均気温13～20℃、降雨）が続くと急激にまん延するため発病前の予防散布を行う。
- 2) 薬剤散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- 3) 薬剤が付着するよう必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するよう散布する。
- 4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すとともに、適正な肥培管理に努める。
- 5) べと病の多発した白ネギは感染源となるため、圃場外で適切に処分する。
- 6) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)

